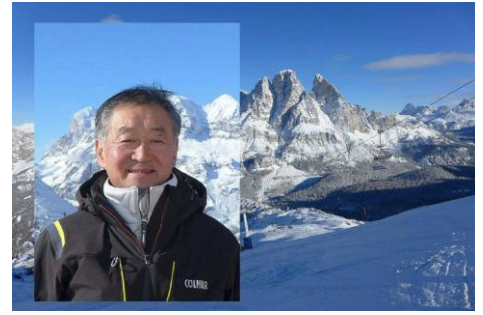


連盟会長に就任して

福島県スキー連盟会長 鈴木 安一



今シーズンよりスキー連盟会長にさせて頂き、責任の大きさを感じております。本連盟機関紙シュプール第42号すでにご挨拶申し上げましたが、シーズン終盤にあたりホームページ上にも改めて所信を述べさせていただきます。

東日本大震災以降、本県にやって来るスキーヤーやスノーボーダーの大きな変化、さらに近年、顕著になって来た地球温暖化の影響などスキー界にとっては看過できない状況下にあると思えます。福島県スキー連盟は昭和9年に発足し、歴代会長のリーダーシップの下に、スキーの振興と技術の向上に取り組んでおり、国体、全日本そしてワールドカップ、オリンピックと数多くの優秀な選手を輩出してきました。また、国体、全国高校スキー大会、全国中学校スキー大会などの開催も多く、さらにはフリースタイルのワールドカップ、世界選手権の開催県としてもスキー界発展のために大いに貢献している県でもあります。

このような状況下、震災後5年が経過した福島県スキー界をかつてのスキースポーツ全盛の時期のような様相を呈するように取り組んで行くことが、今の福島県スキー連盟に課せられた課題ではないかと考えます。

福島県には現在24のスキー場があり営業中です。しかし、雪あり県でありながら、小中学校の義務教育段階で学内でのスキー教室が開かれている学校が年々減少傾向にあります。福島県のスキー界振興に取り組むためには、まずは福島県民全員がスキー、スノーボードに慣れ親しむ仕組みが必要であります。福島県全体でスキー教室の開催ができるような働きかけをスキー連盟として取り組み、子供たちが大きくなって、福島県スキー場を「オラが山は良いよ！」と誇りを持って友人達をスキー・スノーボードに誘えるようになることこそ地域外からの入込増加につながる第一歩だと考えます。さらには、県内外からのスキー人口増加のためには、福島県観光交流局、福島県観光物産交流協会、東北索道協会福島地区部会、全市町村との連携による取り組み強化が必要であると認識考えます。

また、冬季スポーツ振興のためには、普及と技術の進化を図ることも大切であり、こちらは各地のSAJ公認スキー学校との連携強化により、福島県でスキーを始めると『うまくなるのが速い』とか『より楽しい』という顧客視点からスキー学校の受講者が増えるような手法を学校部会と連携しながら進展させたいと考えます。従来から取り組んできた競技力向上については、強化体制づくりであり、強化費の捻出など連盟内の自助努力も併せて取り組みたいと思えます。

2018ピョンチャンオリンピックの開催が迫っており、福島県スキー連盟の強化選手の中からも出場が予定されています。また、2020年の東京オリンピックの新種目にサーフィン・スケートボードが採択され、スノーボードを含めた3つの横乗りスポーツ県として福島県が注目されており、スノースポーツ振興のチャンスになるのではないかと考えます。

最後に、『福島のシュプール』に多くのご協賛をいただきましたことにあらためて厚く御礼を申し上げます。スノースポーツ振興のために連盟を挙げて取り組んで行きたいと思えますので、今後ともご支援・ご協力をお願い致しご挨拶といたします。

(2017年3月)